

Applied Linguistics and Material Development

Ch.2 Defining and operationalizing L2 complexity (Bulte & Housen) (1-3, pp.21-28)

1. Complexity in SLA research

- 複雑性の構成概念には、大きく2つの要素がある。

①独立変数としての複雑性：複雑性が、L2の流暢さへ与える影響が検証される。例として、構造の複雑性が指導の効果に与える影響など。

②従属変数としての複雑性：流暢さ、正確さと共に、熟達度の指標として用いられる場合、

- 複雑性を、独立・従属変数として用いた、多くの先行研究は、複雑性を、正確に定義していない、または曖昧な定義をしているため、結果が様々である。

2. Defining complexity

- 複雑性について、一般的に認められている定義はない。最も基礎的なレベルでの複雑性の定義は、現象に関する以下の2点の特性である。

①現象を構成する個々の要素の特性

②構成要素の数と、関係性の特質。

- 言語学において、複雑性は、「相対的」と、「絶対的」に区分される。(Figure 1, p.23) 相対的複雑性は、言語習得においてその言語項目が学ばれる際の難易度となる。相対的複雑性(難易度)は、学習者の個人要因に関係し、主観的に決定される場合がある。一方、個人要因に関係しない、客観的要素として、知覚的特質(perceptual saliency)と、inputにおけるL2特質の頻度も含む。
- 絶対的アプローチは、ある構造の数や、構成要素の数など、客観的・量的に、複雑性を定義する。

3. L2 complexity

- 学習者の発話を分析する実践的目的がある場合、L2の複雑性は最低以下3つの構成要素がある。

①命題的複雑性：発話中の idea unit の数

②談話・対話の複雑性：未だ曖昧な概念であり、発話の順番・数など。

③言語的複雑性：

{	System の複雑性(全体)：発話全体における、構造の種類、数など
	Structure の複雑性(詳細)：

{	Functional:言語構造の数、明確性 (ex. 3人称単数<現在形の多義性)
	Formal:異なる言語要素の数 (ex. 過去形・現在完了)、従属節との距離

- 複雑性の分類(Figure1)の留意点。

①複雑性の種類が異なる構成要素であることは、理論上においてのみである。実際は、それぞれ

れが複雑に絡み合っている。

②Figure1 のモデルは単なる分類法であり、複雑性の理論ではない。構造面で複雑または簡単な構造を区別するために異なる基準を用いると矛盾が起こるため、理論は必要である。(ex. 3人称単数の複雑性についていくつか異なる定義がある)

③複雑性が量的側面からのみ特定されている。

- 言語的複雑性の構成概念は、3つのレベルから検証することができる。

①抽象的理論(theoretical)レベル:

構造の特性であり、複雑性とは何かを示す。

構成要素の数、要素の埋め込み度合い、要素間の関係性などを含む。

②客観的(observational)レベル:

実際の言語使用における言語の性質。

例)節の埋め込みの方略に関して異なる動詞形の使用、語彙が一般的または専門的であるかなど。

③運用(operational)レベル:

言語サンプルの複雑性に関して、具体的な量的分析・比較を行う。

- 上記 3 つのレベルの構成特性の関係性は、複雑性の研究を行う上で、明確にされなければならない。
- Figure 2:文法的複雑性について。統語的と形態素的複雑性の 2 つに分類され、さらに細かい要素に分類される。
- 語彙的複雑性(Figure 3)は、density, diversity, sophistication にさらに compositionality(語彙項目の数)の側面がある。
- L2 研究の多くは、最も下位レベルの構成要素である、運用・統計のレベルでのみ、言語の複雑性を定義している。CAF 研究において、構成概念としての複雑性の理論は、十分に定義されていない。operational, behavioural, theoretical-cognitive 概念の関係性は、Figure2,3 では、明確ではないため、文法的複雑性、語彙的複雑性は、理論上何を意味するかを明確にすることが必要である。